令和８年度第１回羽咋市総合教育会議　会議録（要約）

１　日　　時　令和８年９月２９日（火）

開　会　午前９時３０分
閉　会　午前１０時２５分

２　場　　所　羽咋市役所　３０２会議室

３　出　席　者

	羽咋市長	岸　　博一
	教育長	八島　和彦
	教育長職務代理者	今井　和秀
	教育委員	西　　和美
	教育委員	西浦　雅人
	教育委員	出雲　香苗
（事務局関係）	総務部参事兼総務課長	中島　一明
	企画財政課長	山岸　厳之
	資産活用室長	山﨑　真資
	総務課主幹	和田　美紀
	教育次長兼学校教育課長	中山　信之
	生涯学習課長	西村　広樹
	スポーツ推進室長	廣島　和哉
	文化財課長	保志場元重
	学校教育課課長補佐	北　　綾子

４　傍　聴　者　２名

５　協議事項
公共施設のあり方について（教育関係施設）

６　会議の概要
次のとおり

○岸市長あいさつ（開会）
○協議事項
公共施設のあり方について（教育関係施設）
○八島教育長あいさつ（閉会）

【主な質疑・意見等】

（今井委員）

今までの説明を聞かせていただいて、子どもたちが本当に年々少子化で人数が減っていくということがよく分かりました。

例えば建物、羽咋小学校が今小学校の中では一番古い建物になっている。昭和 52 年。昭和の建物でいうと、邑知中も昭和の建物であり老朽化しており、いずれ必ず建て直しするか、大規模な改修をするか迫られてくる。

経済的なことを考えれば、長い目で見ると、羽咋小はそろそろ建て替えた方がいいのではないかと思うが、その規模が問題で、羽咋小は今 380 人くらいいるが、その規模で建て替えると、やはりそのキャパしか受け入れることができなくなるので、将来的な羽咋市全体の少子化のことを考えると、余裕を持ったキャパの学校を建てなければいけないのではないかと思う。

ただ建物ができましたから、どうぞ他の小学校の児童も入ってくださいという、簡単な問題ではない。しかしながら、長い目で見ると、そういう余裕を持った建物も今後必要なのではないかなと思う。

（西　委員）

子どもたちの人数を見たときに、現状のままでは無理なんだということを痛切に感じる。

特に、ここに名前が挙がっている粟ノ保小は、私の母校であり、かつ校長として退職まで勤めていたいという気持ちを持っていた学校です。しかし、複式が入りだすと、子どもたちの運動面で不安が出てきますし、学力面でも、たくさんの人の意見を聞いて多様な考えを持つという点で、問題が出てくるかなと思ったときに、考えていかなければならないことかなと思う。

粟ノ保地区は、地域力が強く、子どもを核にして地域の活性化を図りたいという思いがあるので、統廃合を行っていくとしたならば、余喜小や西北台小でやってきたような手順を踏みながら、丁寧に保護者や地域の方の意見を聞いて行っていくのが大事である。地域の方にとって学校というのは心の支えである。

邑知中も資料を見ると、人数が少なくなっていく。中学校という学習を考えた時に、どうしていくべきかは考えていかなければならないことである。どちらにしても、地域の皆さんの支えである学校がなくなるのだとしたら、丁寧な手順を踏んでやっていくのがベストだと思う。

それから、公共施設についても、粟ノ保地区では公民館の建て替えの話が出ており、地域の方にどういう公民館がいいと思うかと聞かれたりします。学校の活用と公民館ということも、考えていってもいいのかなと思う。

（西浦委員）

児童数の変化をみると、15 年から 20 年ぐらいで約半分ぐらいになっている状況がわかりまして、この半分になったときに、どれくらいの学校施設が必要なのかを考え

ると、どこかでまとめるとしたときに、維持管理でバス通学でどれくらいお金がかかるかであったり、まとめたときに移動についてかなりお金がかかったりすることを考えると、やり方を間違えると単純に減らせばいいというものでなさそうな気がする。

児童生徒数、子どもの人数が減っていく中で、次に年寄りの人数が増えてくるわけで、学校が次にお年寄り用の施設になったりとかも、どの年代の施設にあてていくのかも、多分いろいろ考えないといけないのかなと思う。

今は、羽咋小がだいぶ古くなってきているので、これを建て替えるとした場合に、どれくらいの学区にするかもしっかり考えないと、あとは建築費がかかるにしても、子どもたちの移動で年間の維持費がどれくらいかかるかということを考えないと、足元をすくわれないかなというところが大変な問題だと思う。

（出雲委員）

児童生徒数の減少というのを見る前に、先ほどの説明に 2040 年には 65 歳以上が逆転するということと、5ページの資料にありましたコンパクトな市街地の形成という、羽咋市として、どこまでをコンパクトな市街地と目指しているのか漠然としている気がした。意味はわかるけれど、どういうシティ像みたいのを持った上で、消去しなきゃいけないものは消去し、改修しなければいけないものは改修しなければいけないのかなと感じた。

私の住んでいるところと少し関連して、７ページの一ノ宮公民館と上甘田公民館の体育館の解体がそのままになっているという表現をされたが、これは私自身が西北台小学校にまだ勤務していた時に、すでに市としては老朽化がひどいんだ、町民としては、あそこはなくなるのかというような気持ちだったが、そのままになっているということはそれなりの理由があると思っている。

立地条件で、単純に西北台小学校跡地を使えばいいということではないと思うので、市としてはやった方がいいことがそのままになっているということは、住民のどういう意見があるんだろうかと少し疑問に感じた。

資料に書いてある課題を進めていっていただきたいと思うが、立地条件等を含め住民の意見を取りまとめ、そしてコンパクトシティのリソースをこういう形にしたいというものが市民に浸透することが、まず先決かなというふうに感じた。

（八島教育長）

委員の方からも、いろいろ学校を中心とした話ができたなと思うが、公共施設のあり方についてという行政的な視点での見方になります。教育委員会としては、やはり、子どもたちの適切な教育環境というような点で考慮をしていかなければいけないという点があると思っている。

今まで、計画に従って、例えば学校施設の規模と配置の適正化ということで、羽咋小校区については４校を３校にしてきました。それから邑知中学校では小学校２校を１校にしてきました。これは一応達成したわけです。達成したというのは何かというと、そういう適正規模のために達成したのではなく、子どもたちの適切な教育環境はいかにあるべきか、ということを保護者の皆様に説明をして、ご理解をいただいて統

合をしていったということにつきると思います。
　他の市町で、よく統合の問題が出たら右往左往していろんな意見が出るわけですが、やはり保護者の皆様が納得した上でスムーズに進んでというような経緯があるかと思う。
　そのあたりを本末転倒にならないように、学校のことを考えた場合に進めていくのが、私は一番適切でスムーズにいくと考えている。それに基づいて、児童数の減少ということは喫緊の課題で、避けて通ることはできません。これに合わせて、市の計画している適正な公共事業のあり方についても、検討を踏まえた上で進めていくのがいいのかなあと思う。
　確かに羽咋小学校の問題、それから粟ノ保小、邑知中の統廃合、このあたりは今後検討していかないといけないと思っている。
　羽咋小学校の建て替えか、大規模改修と合わせて、どういうふうにリンクさせていくのかということも一つ頭の中に入れておかなければならないし、邑知中学校の統合についても具体的に申しますと、令和 11 年に 71 人になる。それまでは約１クラス 1 学年 30 人というようなことで、中学校として適切な教育活動を行うにはギリギリであると思っているわけです。
　生徒会活動とか部活動とか考えた場合に、令和 11 年に 71 人、各クラス 20 人くらいになってきた時には厳しい、こういう姿が見えてくる。
　こういう時に、中学生の生徒の適切な教育環境でどうなんだろうということを、事前にその前から検討しなければいけないと思うし、粟ノ保小においても、複式が現在１つですけれども、やはり２つ入ってきた時には、やはりそれは保護者の皆様にご理解をいただいて進めていかなければならないと思っている。
　従来、余喜小の時も西北台小学校の時も、もう複式が２つ入ったら小学校としても、もう適切な教育活動を成さないということで、子どもたちの適切な教育環境としては良くないということで、ご理解いただいてやってきましたので、そういうところが一つの基準になると考えている。

（岸　市長）
　まずは、教育環境である。総論的には子どもたちには平等な教育環境を作るのが必要であり、複式はあまり教育としてはよろしくはないという思いはある。しかし、複式が決して悪いわけではなくて、先生の力量によって上手に回すこともできると思うけれども、やはり、複式というのは１人の先生が２学年を持つということで、どうしてもいい環境ではないだろうと思っている。
　複式を解消する、単なるどこにくっつけばいいのかというのは、西浦委員が言われているように、スクールバスがどうなのか、交通の問題がどうなのかといった問題が生じてくる。
　一方で、地域の方々にすれば、昔から小学校がなくなると、地域が衰弱するということも言われた。特に昭和の時代というのは、学校の建てる場所の綱引きがなかなか強くて、地域のエゴが動き合って、以前、富永と粟ノ保の統合の予定があったが、建てる場所がなかなかその地域の了解が得れなくて、時の市長が、地域のエゴのために

子どもたちにそういった劣悪な環境を作れないということで、単独で建てたという経緯がある。

財政的には、先生方の人件費は県費の中で県が持ってくれますし、学校の維持費については普通交付税で補填されているので、学校は減っても財政的にはそんなに軽くはならない。逆に交付税のあった方がスクールバスについても交付税措置されているので、実際かかっているお金よりもたくさん入ってくるという状況がある。

でもそうではなくて、複式で１校にするよりも、やはり学校の平等な環境を作っていくという、教育環境を作っていくと考えれば、適切な規模の統合をせざるを得ないだろうという思いは持っている。

その中で、やはりそういったときに邑知中学校、それから羽咋小学校は、どこかで建て替えなければいけないけれども、財政的に考えれば先ほども言ったように、早い段階で統合が決まっていれば、例えば５年後ぐらいに統合しようということが決まっていれば、統合は国の国庫負担の話になって、財政的にはすごく、同じ学校を建てても財政的には全く違うので、ここが結婚と一緒で、お互い地域とタイミングがうまく合えばそういった財政的な軽減もできるというのがある。

だから、急に来年再来年からやろうというのではなくて、粟ノ保は今、地域が学校自体統合するのが反対だという声は聞いている。でも、長い目で、あと５年 10 年経った時に、仕方ないという話があれば、そういったところを、見据えながら羽咋小学校と統合し、新しく建て直す、そういったことができるんだろうと思っている。

それからコンパクトシティは、できるだけ地域を駅周辺に集めていく、公共施設や病院を駅周辺にもってこようという計画ですけれども、何をどうするかというのは、急に、ある学校を持ってこようというのではなくて、40 年ぐらいかかって少しずつ、そういった古い建物を新しく更新するときには、できるだけ羽咋駅の周辺に集めていきましょうという、そういった構想なので、10 年 20 年で達成するような計画ではないということで、ご理解いただきたい。

総論的には皆さん分かっている。どこに学校を建てるかという話をした時には、交通の面であったり、送り迎えであったり、そういったところはなかなか難しいので、ここは地域とも、教育委員会であったり、行政であったり、少しもみながら出していかなければならないと思っている。

ところが、あまり時間があるからといって、結論は先延ばしにするではなくて、確実にいつまでに答えを出すということが必要で、それに合わせて、例えば学校が必要であれば、大きな面積の用地を取得しなければいけない。

それについても、いろいろな開発行為であったり、農地法であったり、そういったものの必要があるので、この辺りもしっかりと地域の皆さんにご理解いただきながらしていくんだろうと思っている。

余喜小の時も意外と反対があって、学校がなくなると地域が衰弱すると言われたけれど、やはりそんなことはさせない。余喜小の跡地は公民館として、いろいろなイベントをやっている。今まで余喜の地区でやっていた踊りも、余喜地区全部で去年からやっているし、地域で朝市もやっている。

そういった形で地域のまとまりというのもあるので、特に粟ノ保も本当に地域力が

強い。だから学校がなくても、逆に公民館を新しく建てる、その公民館を地域の活性化の活動として、コミュニティや小規模多機能な機能を持たせながら、学校がなくてもそういった活動を代替するような施設を作って、地域を活性化していくというのは、学校と地域の活性化と両方一緒にセットで考えていく必要があると思っている。

少し時間はかかるけれども、しっかりと資料を示して地域で盛り上げながら、学校がどうあるべきか、どう建てて、どうしていくべきかということのコンセンサスを得ていく必要が多分あるだろうと思っている。

次回の会議については、今年度内に開催し教育関連の事業について審議する予定

八島教育長が閉会のあいさつをし、会議を終了する。

午前１０時２５分閉会